



わかしよ

〔学校教育目標〕

○かしこい子ども

○美しいものに感動する子ども

○思いやりのあるやさしい子ども

○たくましく生きぬく子ども

3月17日 卒業証書授与式が行われます。6年生素晴らしい卒業式をつくろう。

小笠原流礼法の始まりは甲斐源氏に由来し、南アルプス市小笠原に館(やかた)を築いた小笠原長清公にさかのぼります。700年の歴史があるとされています。

小笠原流礼法は

「すべての行動やふるまいの根底には相手を大切に思う「ころ」があり、そのころは「かたち」すなわち作法によって表現されます。全ての作法(かたち)には、理由が存在いたします。ころとかたち、このふたつがあつてこそ「礼法」は成り立つのです。礼法とは決して一辺倒なものではなく、時・場所・状況に応じた自然なふるまいが重んじられます(小笠原流礼法 HP より)

が基本的考えです。南アルプス市では小笠原流礼法を取り入れた卒業式を行います。卒業生一人一人が、心を大切にして、感謝の気持ちを表す卒業式を創っていきます。

練習の中で子供たちに次のように話しました。

小笠原流礼法は、「ころ」を大切にされた礼法です。校長先生も気持ちを礼法という形でしっかりと伝えていきます。校長先生は、卒業証書を一人一人に渡します。証書には校長先生の名前が書いてありますが、校長先生個人が渡すのではなく先生方を代表して渡します。先生方とは、6年生の先生や今教えて



いただいている先生だけではなく、みなさんが入学した時からのすべての先生方です。「卒業おめでとう。中学校に行ってもしっかりと頑張ってください。」すべての先生方の思いを、みなさんの証書に託します。

みなさんも礼法でいただきます。1年生から卒業式の日までを振り返り、卒業証書に込められた思いをしっかりと受け止め、証書授与を行ってほしいと思います。またその思いが託された証書を受け取る姿を、みなさんのお父さんやお母さんが見えています。お父さん・お母さんにも今まで育ててくれた感謝の気持ちを伝えてください。「残心」という言葉があります。卒業式の会場に皆さん一人一人の心を残してください。



6年生奉仕作業 ～6年間の感謝の気持ちを込めて～



3月9日に6年生が、普段の清掃ではなかなか手の届かない場所を心を込めて清掃してくれました。窓ガラスの高いところや配膳台など、6年間お世話になった校舎に「ありがとう」の気

持ちを込め、グループで協力して清掃に取り組みました。「6年生、頑張って掃除してきれいになりありがとう。」と伝えると、「心がきれいになった感じがする。」と感想を述べてくれました。自分たちを育ててくれたすべての人や校舎に感謝の気持ちを残していました。



先生方へ「ありがとう」の手紙 若草小学校の先生方一人一人に、6年生から「ありがとう」の手紙が届けられました。



校長宛メッセージ紹介 中休みにサッカーをしてくれてありがとうございました。とても楽しかったです。算数の授業をしてくれてありがとうございます。修学旅行と一緒に来てくれて、面白いことをしてくれてありがとうございました。

先生方も6年生からの手紙を微笑みながら読んでいました。教師冥利に尽きるひと時でした。6年生ありがとう。

毎日の給食は、南部給食センターから届けられます。若草・櫛形・甲西地区の小中学校12校の児童・生徒の給食を作っています。栄養士の先生は日頃から学校の様子を見に来たり、給食の栄養指導をしてくれます。先日、「学校給食物資選定委員会」に参加してきました。給食の食材を選定する会です。写真は栄養士の先生方が、味や食べやすさ・値段などを考慮し、給食の食材を選定している様子です。見えないところで子どもたちのために働いている姿がありました。栄養面や食べやすさを考えたおいしい給食ありがとうございます。



「ごめんね。」が言えるようになったと嬉しそうに報告してくれました。「ぼくもごめんね。」と言ってくれうれしかったとのこと。「けんかしてもすぐに仲直りできることがいいクラスだよ。」と友達に教えられたそうです。照れくさい気持ちもあるけど、素直に謝る気持ちが人の心を温かくしてくれることを学んだ子供たちでした。

